

平成 25 年度 事業報告書

(第 22 期)

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

(設立許可 平成 3 年 12 月 20 日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団

枚方市招提田近 1 丁目 9 番地

平成 25 年度 実施事業の概要

本年度は、平成 25 年 2 月の理事会ならびに同 3 月に開催された評議員会において決定された事業計画書に従い、以下の事業を実施した。

I. 一般助成事業（事業管理費を含む実施額 3,029 万円、修正予算額 2,350 万円）

本年度は、年度計画に従い、助成事業の中の 4 つの助成等の募集を行ったが、シンポジウム等の開催の助成に対する応募がなかったため、以下の 3 つの助成等を実施した。実施に当たっては、平成 25 年 6 月に助成事業の募集を開始し、応募締切日 8 月 31 日までに提出された書類を基にして 9 月 26 日に選考委員会を開いて審査分担を決めて採点が行われた。その結果に基づき選考委員会の推薦案をまとめ、12 月 4 日の理事会にて承認された。贈呈式は平成 26 年 3 月 11 日にホソカワミクロン本社にて開催され、38 名の受賞者を含め 60 名の出席があった。

1) 研究助成（助成金配分額 2300 万円）

本年度は 119 件の応募があり、その中から 30 件の研究に対して助成することが決定された。研究助成については、採択率が 20%以上になることを目指しているが、本年度は、利息収入の予定以外の増加により、ホソカワミクロン(株)からの寄付を要請することなく、1 件当たりの助成額の調整により結果的に採択率 25.2%の助成を実施した。

2) KONA 賞の授与（賞金配分額 100 万円）

本年度は 3 件の推薦があり、その中から物質・材料研究機構の目義雄チームリーダーに、「微粉体プロセス高度化による高次構造制御体の創製」の業績に対して KONA 賞が授与された。

3) 研究者育成のための助成（助成金配分額 270 万円）

本年度は 12 件の応募があり、選考委員会での推薦を受けて理事会で 10 件の助成が決定されたが、その後に助成対象者の 1 名より他の受賞と重複したことによる辞退があり、最終的に 9 名に助成が行われた。

II. 特定事業（事業管理費を含む実施額 833 万円、修正予算額 850 万円）

財団設立 20 周年記念の特定事業として、平成 24 年度には、1)細川益男メモリアルシンポジウム、ならびに 2)KONA Symposium 2012 を開催した。さらに当初は平成 25 年度に 3 つの行事が予定されていたが、その中の海外シンポジウムの開催は平成 26 年度に延期することになったため、平成 25 年度は年度事業計画に従って以下の 2 つの行事を実施した。

1) ホソカワ粉体工学研究奨励賞の贈呈（奨励金配分額 300 万円）

粉体工学の将来を担う若手研究者への研究奨励を図るために、39 歳未満の年齢制限を設けて平成 25 年 3 月 31 日を締切として募集を行い、41 件の応募があった。この研究奨励賞については、選考委員ならびに理事からなる 20 名の審査委員が審査にあたり、5 月の理事会、ならびに 6 月の評議員会での承認を得て、6 名の受賞者が決定された。その贈呈式は、9 月に開催された財団設立 20 周年式典の中で行われた。受賞者には副賞として後日、各人に 50 万円の振込みを行った。

2) 特別記念講演討論会の開催

財団設立 20 周年特定事業として、例年自主事業で開催している粉体工学に関する講演討論会に合わせて、平成 25 年 9 月 3 日(火)に帝国ホテル大阪で特別講演会を開催した。本講演会では、三菱総合研究所理事長、前東京大学総長小宮山宏氏により、「日本「再創造」～プラチナ社会実現に向けたイノベーション」の演題で特別講演が行われた。

Ⅲ. 財団自主事業（実施額 1,115 万円、予算 850 万円）

1) 粉体工学に関する講演討論会の開催（実施額 197 万円）

本年度は「先端から基礎までを支える粉体工学の進歩」をテーマとして第 47 回粉体工学に関する講演討論会を平成 25 年 9 月 3 日（火）に帝国ホテル大阪で開催した。講演件数は 6 件、参加者数は 201 名（内訳：企業 132 名、大学・研究機関 8 名、ホソカワミクロン関係者 32 名、財団関係者(財団 OB、講師・司会を含む)29 名)で盛会裏に終了した。

参加者の 70 名（50%）から得られたアンケート結果によると、今回の講演の中では、粉体工学を基にしたセラミックス製造科学の基盤技術、機能性ナノ粒子を用いたナノコンポジット薄膜とその応用などに特に関心が高かった。

この粉体工学に関する講演討論会は、2001 年以来、「ナノ」のキーワードを継続してきており、関連テーマを継続する希望も多いものの、粉体単位操作や他の切り口からのテーマについての要望もみられた。なお、本講演討論会の企画は、粉体技術談話会（会長増田弘昭 京都大学名誉教授）に委託している。

2) 国際学術誌「KONA」の発行（実施額 918 万円）

KONA 誌 No.31(2014)を平成 26 年 1 月 10 日に発行した。本誌は、アジア、アメリカ、ヨーロッパの 3 ブロックの編集委員会で編集し、粉体工学に関する優れた研究論文、レビューを世界から集めて毎年発行し、粉体工学関係研究者、研究機関、図書館等に無償で配布している。なお、アジアブロックの編集は粉体技術談話会に委託している。

No.31 は総頁数 274 頁(No.30 は 288 頁)、掲載論文数 19 編(アジアブロック 2 編、アメリカブロック 7 編、ヨーロッパブロック 10 編)であった。掲載記事の内訳は Review paper 10 編、Original paper 9 編、Information article 2 編であった。

KONA 誌はインターネットで公開されているが、本年度は、紙媒体の増刷によりその存在の認知度の向上を図るべく、発行部数を昨年の3倍の1,800部として、アメリカブロックへ150部、ヨーロッパへ210部、アジア諸国等へ約950部、国内へ約440部送付した。

さらに本年度は、KONA 誌が、科学技術振興機構（JST）の運営している学術誌データベース J-STAGE に掲載されることが決定し、平成25年12月にNo.30が初めてJ-STAGEに掲載され、さらに年度内に最新号No.31(2014)、ならびにNo.29~No.20までのバックナンバーも掲載された。

3) 年報の発行（実施額34万円、予算70万円）

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果等を公表するために発行される。年報No.20(2012)は、平成24年度の活動状況を中心としたもので、研究助成の成果報告書は含んでいないがシンポジウム等の開催についての報告を掲載し、平成25年5月に発行した。なお、当財団の年報は平成20年以降、冊子での発行を取り止め、ホームページでの掲載のみとなっている。

以上